



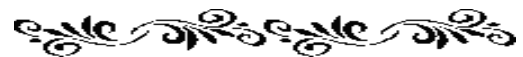
印西市文化ホールで第7回のコンサートを開きます！

室内合奏団クレメンティア団長・フルート奏者 湯川和雄

私どもの本拠地・我孫子市には音楽ホールがありません。お隣の印西市は、だいぶ年月を経過してはいるものの、建てた当時の時代を考えると極めてはっきりしたコンセプトの立派なホール（印西市文化ホール）を持っています。

このホールで室内合奏団クレメンティアがコンサートを開くのは、まるで隣家の「客間」にお邪魔するような気恥ずかしさがあります。私どもとしてはこのホールに対する、またこのようなホールを維持し続けている印西市民に対する最大の敬意を払いつつ、プロ合奏団としての音を響かせることで「ご挨拶」としたいと思います。

-----銘器ベーゼンドルファーのこと-----



さて、このホールはスタインウェイとベーゼンドルファー、2台のコンサートグランドピアノを持っています。スタインウェイはどここのホールでもよく見かけますが、ベーゼンドルファーまである...となれば、そのホールの意気込みがわかります。

ただし、ベーゼンドルファーはピアニストにとって相当手強いピアノなのでしょうが、印西文化ホールのベーゼンドルファーはホール創立以来ほとんど弾かれていないようです。なんともったいない！

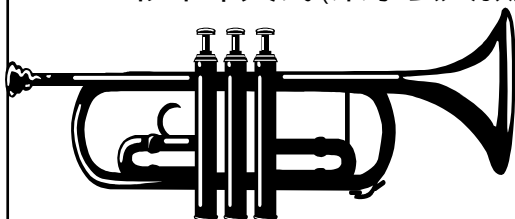
ところで、今回のコンサートでのピアニストは、我らが小林道夫氏です。小林氏がまだ杉並にお住まいの頃、私のリサイタルの伴奏合わせでよく小林邸を訪れました。氏の愛用のピアノはベーゼンドルファー！ 根の生えたようなドーンとしたたずまいにもかかわらず、深みのあるピアノニッシモが美しく、まさに名手の弾く銘器の印象が忘れられません。今お住まいの大分県由布院でも、あのベーゼンドルファーは良い音で鳴っているに違いありません。

前述のように、印西文化ホールのベーゼンドルファーはほとんど弾かれていないわけですので、ピアノの調整、調律はベーゼンドルファー本社で10年も修業されたコンサート調律師・井上清士氏（柏市在住）にお願いしました。

このコンサートはクレメンティアの腕達者な弦楽器奏者を加え、おそらく印西文化ホールが最も良い音で響くチャンスを迎えることとなりましょう。



.....杉木峯夫氏（東京芸大教授）入団.....



今回のコンサートから 杉木峯夫さん（トランペット）が入団されました。杉木さんは数々の輝かしい経歴（特にフランスで）を経て、現在、東京芸術大学教授。我孫子市白山に住んで22年、我孫子の宝です。何しろ素晴らしいトランペット奏者で、クレメンティアを立ち上げる以前から、いつかは必ず一緒にやろう！と話し合っていた人です。やっと実現しました！



室内合奏団クレメンティア第6回演奏会 in 豊四季

柏市豊四季教会での室内合奏団クレメンティア第6回コンサートは満席！ 響きはいかがでしたか？

ヨーロッパでは戦争で廃墟となった街を建て直すとき、人々はまず教会とコンサートホールを建てるという話を聞いたことがあります。なるほど、まず「精神」から建て直すのか、と感銘を受けます。教会だけではなく、お寺の本堂も音響が良いですね。

今後、いつになるかわかりませんが、我孫子にホールができる時が来たら、今回のコンサートの音があたたかい響きの例として皆さまにとっても私どもにとっても良い参考になるのではないのでしょうか。
(湯川和雄)

市民の声をもっと大きくしよう ~ 音楽ホールの建設を求めて！

世話人・高須正行

3月2日に市民活動フェアの一環としてパネルディスカッション「言わせてもらおう！新市民会館」が開催されました。主催者は我孫子市の「文化施設検討委員会」の皆さんでした。この委員会は我孫子市のホームページによると、新しい市民会館をどのような建物にするかについて長い時間かけて検討してこられたようです。またこれとは別に、閉鎖された我孫子市民会館の「跡地検討委員会」というのがあって、ここから提案された市内3ヶ所の候補地いずれかに市民会館の早期再建の賛同を得ようというのが主催者側の思惑であったようです。



しかしながら、出席した各市民団体のパネリストからは、急がずにじっくり議論して市の財政に負担をあまりかけずに、中途半端な多目的ホールでなく音楽専用ホールをアクセスの良い場所に、しかも運営方法を考え維持費を最低限にすることを考慮して建設すべきとの声が大勢を占めました。この時私は、昨年10月7日に行われた「市民会館にかわる新たな文化施設検討シンポジウム」に出かけたことを思い出していました。

このシンポジウムは上述の文化施設検討委員会の主催で、4月から討議してきた内容を中間報告し、広く市民からも意見を聞こうとの位置付けだったと思います。検討委員会のメンバーの方々は、これまで会館を使ってきた市民団体の代表者が多く、その報告の内容

は「とにかく発表会場がなくなってしまったので同じ規模のホールができるだけ早く欲しい」とのこと。

これに対しこの報告を聞いた一般参加者からは「文化都市を志望するならそれにふさわしいホールが必要である」「今後ホールを考える場合我孫子市だけで考えるのではなく、東葛圏として広いスパンで目的を持った専用のホールが必要。また子どもたちの教育を考えても中途半端な多目的ホールは駄目」との発言が相次ぎ、参加者から一斉に拍手があがる場面もありました。

今回のパネルディスカッションは、奇しくもこのシンポジウムとよく似た光景となり、市民各層の皆さんもやはり私と同じように、しっかりした音楽ホールが我孫子に建設できるよう、じっくり時間をかけて良いものを作るべきと考えていることがよくわかった次第です。

会館を使う側だけでなく、聴衆として客席で聴く側の市民の音楽レベルが、アマチュアのレベルではなく本物志向になってきた事を意味しているのではないのでしょうか。今こそ私たち市民が声を大にして、本物の音楽が鑑賞できる音楽専用のホールを建設しようと、市議会や行政に向けて発信して行かなければならないと思います。

主催者が望んでいた方向とはちょっと違う、まさにタイトルどおり「言わせてもらおう！新市民会館」となったパネルディスカッションは、私たち世話人会が皆様にご賛同をお願いしてきた音楽専用ホール建設の署名活動にお寄せいただいた多くの皆様の意思を支えてくれたものと確信しました。

室内合奏団クレメンティア 今後の予定

第8回演奏会はけやきプラザに戻ります！

2008年12月7日(日) 14:00開演 けやきプラザふれあいホール(予定)

【出演】 宮部小牧(ソプラノ) 湯川和雄(フルート)
平野智美(チェンバロ) 松本ゆり子(チェロ)
【曲目】 アダム モーツァルトのキラキラ星による変奏曲
ルーセル ロンサールによる二つの詩 他



ステージ、客席ともロールバック装置を使わないシンプルな響きを実現する予定です。

パソコンのメールアドレスをお持ちの方はメール会員への切り替えをお願いします。アドレスをお知らせください。友の会をお手伝い頂ける方もご連絡お待ちしております！

Eメール: fan-office@ensemble-clementia.com

Tel・Fax: 04(7188)1673

〒270-1132 我孫子市湖北台2-7-25

室内合奏団クレメンティア友の会事務局長 山下 広之

